

第1回加賀市ビジョン策定委員会議事録

1 開会

2 市長あいさつ

策定委員会開催にあたり、山田市長からあいさつした。

3 委嘱状交付

あらかじめ机上に配布する形式で委嘱状を交付した。

4 委員紹介

事務局から、名簿に基づき各委員を紹介した。

5 委員長の選出

委員の互選により、三浦委員が委員長に選出された。

6 諮問について

山田市長から三浦委員長に諮問書が手渡された。

7-（1）加賀市ビジョンの概要と今後の進め方について

加賀市ビジョンの概要と、策定委員会の今後の進め方について説明した。（資料1）

【委員長】

- ビジョンを夢物語で終わらせないために、重点目標、重点項目を落とし込み、KGI や KPI を設定して評価をしていくべき。今後、具体的なアクションプラン等は、この委員会で検討するのではなく、ビジョン策定後に事務局の方で立案してもらう。

【高山委員】

- 経営戦略を策定する際には SWOT 分析を行うことが多い。
加賀市の強みを活かすことは大事だが、弱みについても把握して、カバーしていく必要がある。事務局には分析をお願いしたい。
- ⇒事務局回答：加賀市についての SWOT 分析を行い、次回の委員会の時にご提示する。

【林委員】

- 策定委員を選考した意図があれば教えて欲しい。専門分野の目線で発言すればいいか。
- ⇒事務局回答：今回策定していくのは、様々な分野を含んだ加賀市全体のビジョンである。委員の皆様におかれては、全体的な目線や、各専門分野の視点の両方でご意見をいただきたい。

7-（2）加賀市の現状と課題について

加賀市の現状と課題について、統計資料を基に説明した。（資料2）

【田向委員】

- 景気が良くなりつつある中で、消極的な財政になると産業界として厳しい。人口減少が加速していくのではないか。
- ⇒事務局回答：目的基金については、状況に応じて積極的な活用を行っているので、残高の増減があるものとする。基金残高を増やすことを目的とするわけではないが、災害時の急な支出に備えるためにも、財政調整基金についてはある程度の残高は必要だと思っている。また、財政の負担の平準化も必要である。もちろん財政的な投資も必要だと考えているので、そのバランスを見極めていきたい。

【高山委員】

- 基金残高も大事だが、市税や市債についても市の財政状況を見る上で大事である。また、市政運営を行っていくうえで、歳入と歳出のバランスが非常に重要である。市民の満足度をあげつつ、将来の市民負担のことを考えなければいけないので、市政運営はとても難しい。ビジョンで掲げた4年間の計画期間の中で、どういう風に市政を運営していくか、市民サービスのレベルをあげて、市の活性化につなげていくかが問題である。

⇒副市長回答：今回は4年という期間でビジョンを策定するが、行政はその後も継続していかなければならない。行政の継続性をいかに担保していくかは今後、事務局側でも検討したい。また、市税については、直近の令和7年度決算では上振れとなる見込みである。

【委員長】

- 加賀市再生プロジェクト検討会でも議論をしたが、貯金ありきで行政サービスが低下してしまっただけとはいけない。ただし、最低限度の基金残高の維持は必要なので、そういった面でのビジョンも必要になってくるのではと思った。

【田中委員】

- 人口減少の度合いは、地域によって非常に大きい差が出ているので、その要因を事務局で検証してほしい。温泉、自然、歴史文化、伝統工芸などの各分野を細分化せず進めていく事は難しいと思うので、それぞれの強みや弱みの分析を行うことが大事である。

7-（3）加賀市ビジョンの理念体系（案）について

加賀市ビジョンの理念体系（案）について説明した。（資料3）

【委員長】

- 市長の目指す「もっと住民が幸せな加賀市へ」について市長の思いを聞かせてほしい。

⇒市長回答：住民が、精神的、肉体的、社会的に幸せを感じられる社会を目指したい。

【山口委員】

- 「地域資源の価値を高める」という視点について、以前タウンミーティングで中学生が「地元への愛着を持つための学びを行いたい」という意見を言っていた。このような学習の必要性というものが、部活動の地域移行など、子供たちの生活の中に入ってくるべきだと思うし、この視点にはそういった指標が必要になると思っている。また、それが子供や若者の学びと成長を支える居場所につながっていくと思う。

【委員長】

- 市長は委員会に出席できる時間が限られていると思うので、本日これだけは最後に伝えておきたいという事があれば、ぜひ市長の口から聞かせてほしい。

⇒市長回答：私の目指す幸せな姿である、ウェルビーイング（＝良い状態）の市民の姿について、委員の皆様には共通理解をもていただいたうえで、皆様の視点から、どうすればこの状態まで到達できるかということについて、ご意見をいただくとありがたい。

【辻委員】

- 理念体系（案）を見たときに、伝統工芸の観点から、例えば新しい産業を生み出すなど、新たに大きな成果を挙げることができるような、希望を持てるようなものが見えてこないのが心配。伝統工芸については、「未来に挑戦する」や「過去から学ぶ」の部分には掲載されないのか。

⇒事務局回答：「未来に挑戦する」や「過去から学ぶ」の部分に書いてあるものは、議論用のキーワードとして記載した。伝統工芸や歴史についても、あげていただければ、今後キーワードの1つとして記載することも考えられる。ビジョンなので、詳細な事業を記載するというよりは、どういった視点や方向で動いていくかといった、目標になるようなものとしてまとめあげたい。

【増野委員】

- 理念体系（案）のイメージ図について、容易に山頂に登るというよりは、様々な困難があったとしても、幸せな加賀市に向けて、みんなで支えていくというイメージを表現することが大事だと感じた。例えば、山頂までの道のりを複数にしたり、途中で引き返すことができるような道を作るなどの工夫をしてみてもよいのでは。子どもたちが見ても、加賀市の目指す方向が分かりやすく、もう少し励みになるようなものを描くなどして明るさを出し、将来に希望が持てるような理念体系図になればよいと思った。

【委員長】

- Ｕターン者を増やすために、こういった施策を行っていくかといった視点はあったほうが良いと思った。

【岡田委員】

- 10年間の総合計画を達成するための、4年間の中期ビジョンを策定するという認識で合っているか。

⇒事務局回答：現在の総合計画は今年度で計画期間が終了し、新たに10年間の総合計画を策定する予定は今のところない。そういった中で、市の目指すべき姿や方向性の指針としてビジョンを新たに作ることとなった。

【岡田委員】

- 今後の会議の在り方について教えてほしい。

⇒事務局回答：今回お示しした理念体系（案）の中身や、今後4つの道標に紐づく重点的な項目を挙げていく予定なので、その項目の内容などについて議論していただきたい。

【山田委員】

- 事前にお送りいただいた、理念体系（案）の補足説明資料については、今後どのように活用していけばいいのか。

⇒事務局回答：今後改めて理念体系（案）の補足説明資料は作成するつもりなので、改めて次回以降ご提示する。

【嶽野委員】

- 新産業を誘致することも大事だが、既存産業をどうしていくかも大事だと思う。また、移住者や交流人口を増やすことも重要だが、将来を見据えて流出人口を減らす取組を考えることも必要だと思う。

【加藤委員】

- 加賀市の人口や子供の人数について、具体的な現状を知らない親御さんがたくさんいる。市の教育委員会で実施した「学校施設の在り方に関するアンケート調査」について、加賀市の人口減少のことを載せてもらったら、反響が大きかった。こういった市の現状を知る機会をもっと作っていったら良いと思う。

【下口委員】

- ビジョンについて、基本理念である「もっと住民が幸せな加賀市へ」というものはとても自然なものであるため、市長の思いをもっと強く全面に出していったほうが良いと思う。

8 その他

9 閉会

事務局からの事務連絡